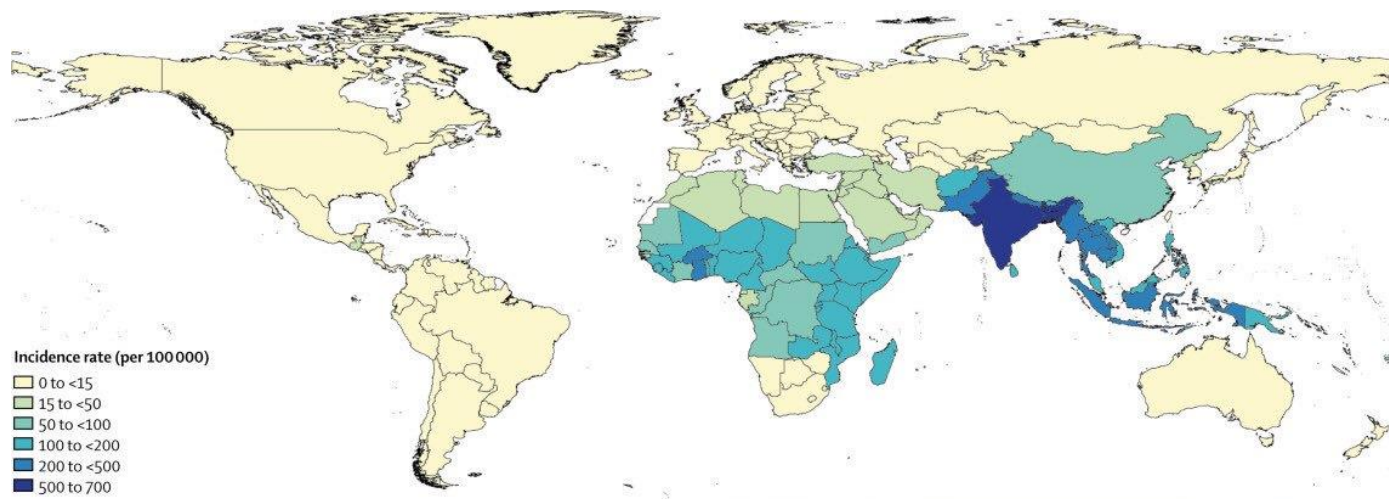


腸チフスワクチンについて

作成日 2019年4月3日

1. 腸チフスのリスクについて

腸チフスは、チフス菌に汚染された飲食物により感染し、時に重症化し生命を脅かす感染症です。毎年、世界では約1100万～2100万人が感染し、約13～16万人が死亡していると推計されています。日本では年間30～60例の患者が報告されていますが、そのほとんどが海外での感染例です。衛生水準の低い国で蔓延しており、特に南アジアでの感染が多くみられます。治療には抗生剤を使用しますが、近年は抗生剤が効きにくい薬剤耐性のチフス菌が多く報告されています。



2. 腸チフスの予防

汚染された飲食物の摂取を避けることが大切です。具体的には、飲料水は開封されていないペットボトル飲料もしくは煮沸した水等の飲用、食事前に十分な手洗いや十分に加熱された食事を摂取することが予防に有効ですが、完全に感染を予防することは困難です。予防接種は、世界的には弱毒生ワクチンと不活化ワクチンが実用化されており、当院では不活化多糖体ワクチンを扱っています（国内で承認された腸チフスワクチンはありません）。効果は60～70%程度で2～3年程度有効ですが、腸チフスに似た病気のパラチフスには無効です。

3. 腸チフスワクチンの種類（費用については別紙のワクチン価格をご参照下さい）：裏面参照

4. 腸チフスの予防接種が推奨される対象者

南アジア等の流行地への渡航者（特に長期滞在、小児、郊外への滞在、友人・親族への訪問）

5. 副作用が生じた場合の対応

予防接種後の副作用は接種部位の腫れ等の頻度が高く、数日の経過で自然に軽快することがほとんどですが、日常生活に支障のある副作用に対しては、医療機関を受診いただき、評価の上、对症療法を行うことがあります。また、当院で取り扱っているワクチンは、国内外で多数の接種実績があり、重篤な副作用が起こることは極めて稀ですが、国内未承認ワクチンについては、重篤な副反応が起こった場合に適用できる公的な補償制度がありません。代替として民間企業による自社補償制度の適応となることがあります。

質問・連絡先：不明点がありましたら、担当した医師までご連絡下さい

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院 トラベルクリニック
電話：03-3202-7181 03-3202-1012（直通）

3. 腸チフスワクチン

	Typhim Vi®
製造会社	Sanofi Pasteur
承認取得	WHO-PQ 2011/6/11
投与経路	筋肉注射
投与量	0.5mL
内容量	チフス菌 Vi 細胞表面多糖体抗原 25mcg 塩化ナトリウム 4.15mg、リン酸二ナトリウム 0.065mg、リン酸一ナトリウム 0.023mg 滅菌水 0.5mL、残留ホルムアルデヒド(100mcg 未満)、フェノール 0.25%
回数	1 回量 0.5mL を 1 回
効力	健康成人 54 名に 1 回接種、4 週後の 4 倍以上抗体上昇率 96% (Product Infomation) 健康成人 97 名に 1 回接種、4 週後の 4 倍以上抗体上昇率 88% (Keith WA. 1996)
追加接種	必要に応じて 2-3 年毎
禁忌	本剤の成分による重度アレルギー、中等度以上の急性疾患
妊婦・授乳婦	FDA category C : 妊娠・授乳中の影響に関する研究は行われていない。 腸チフスのリスクが大きい場合に考慮される。 不活化ワクチンによる胎児・乳児へのリスク増加は示されていない。
効果	腸チフスの感染予防
副作用 発生頻度	10%以上 局所反応：腫脹・疼痛、全身反応：頭痛 10%未満 局所反応：硬結・発赤、全身反応：吐き気、倦怠感、筋肉痛 0.1%未満 アレルギー反応等

参考：

Lancet Infect Dis. 2019 Apr;19(4):369-381. doi: 10.1016/S1473-3099(18)30685-6.

WHO Typhoid and other invasive salmonellosis